



## Follow up

会長の時間 23—3 月 19 日に因み桂米朝について

休会中、週報特別号の会長の時間に替えた巻頭文では全 8 回 RC のお話でした。又、先週も久々の例会再開で、それ迄

の経緯の説明やら各ご報告事項に終始しました。そこで本日、RC 以外のお話でお付き合い願います。明日 3/19 は、桂米朝の命日です。2015 年 3 月 19 日享年 89 歳で亡くなりました。改めてご紹介する迄もなく平成 8 年重要無形文化財保持者（人間国宝）、平成 21 年に文化勲章の大看板。わたくし大の落語ファンで、ことに米朝は、前のサンケイホール、今のブリーゼブリーゼの独演会にもよく通いました。

米朝は、6 代目笑福亭松鶴、3 代目桂小文枝（後の 5 代目桂文枝）、3 代目桂春団治らと上方四天王の一人として、終戦後に衰退していた上方落語を復興させます。ことにネタの掘り起こしには特筆すべきものがあり、膨大な文献から発掘したり、かろうじてご存命だった古い芸人さんや噺家から聞き取り調査をしたりして、一度滅んだ噺を多数復活させました。多くの著述も成しています。立川談志に言わせれば、今の上方落語は、米朝が掘り起こした財産をよってたかって食って繋いでるんだと評します。たぶんその米朝の学者肌は、入門経緯にあると思います。旧制姫路中学卒業後、1943 年大東文化学院（現大東文化大学）に進学しその在学中、作家で落語や寄席の研究者正岡容に入門します。その後、師匠正岡の縁で 4 代目桂米團治の弟子となり、3 代目桂米朝を名乗るに至ります。この米朝の師匠米團治の名前を継いだのが今の米團治、米朝の長男小米朝です。この師匠米團治とても変わった方だったようで、その様子は、落語“代書”、これは師匠米團治作なのですが、その枕で米朝が師匠の事を変面白く語っています。

さて米朝の落語で一つ上げると言われれば皆さんは何を挙げられますか？あるいは余り落語に馴染みの無い方に一つお薦めするとしたら何でしょう。大ネタ中の大ネタと言え「地獄八景亡者戯」でしょうか。通しでやっても 1 時間 10 分を超えますし、受け継いだ弟子の枝雀は、間に中入りを入れ前編後編に分け演じたりします。風格の要るネタとしては、「鹿政談」か「はてなの茶碗」でしょうか。ただ私が挙げるとすれば、やはり何と言っても「百年目」です。事実、米朝自身も「どの話が一番難しいかと聞かれたら百年目だと答える」と書いています。

ほんのあらすじを申し上げますと、ある大店の堅物の番頭。今日も散々奉公人をしかりつけると、お得意さんまわりをしてくると言って店を出ます。この番頭、お店では堅物で通っているが実はかなりの遊び人。店を出ると、隠れて豪華な着物に着替え芸者衆の待つ屋形船へ。船の中では飲めや歌えのドンちゃん騒ぎ。酔いも深くなったところで一同は船を土手に着け、満開の桜を見ながら散歩でもしようという事になります。しかし、土手に上がると、酔っぱらっている番頭、誘われるままに、鬼ごっこの鬼のように目隠しをして芸者を追いか

けまわし遊ぶことに。目隠しをした番頭は、あっちへふらふらこっちへふらふら、ようやく芸者を捕まえたと言った番頭が目隠しを取ると、何と捕まえたのはお店なの大旦那。偶然にも大旦那は土手まで花見に来ていたところ。「はあ一旦那樣、ご機嫌よろしゅうございます。お久しぶりでございます。ご無沙汰をして申し訳ございません」と番頭ハチャメチャに取り繕うも、あまりの事にその場に座り込んでしまう。『番頭どん。そんなところに座ったら着物（べべ）が汚れますがな。随分と酔っている様やが、皆さん怪我の無いよう遊ばせてやっておくはなれ。ご如才もあろまいが（手抜かりは無い）夕方はちょっと小早う帰してくだされよ』とその場の空気を壊さない様に言い残し大旦那は去って行きます。完全に酔いが醒めた番頭は、店に戻ると事の重大さに体調が悪いと言って二階に上がり悶々としつつ寝てしまう。翌朝、呼び出しを受けた番頭、大旦那が“旦那”という言葉の言われ話などを混ぜつつ、来年には店を持たせるのもう少し辛抱してやなと諄々と諭しつつよもやま話。その一言一言胸に刺さりただただ頭を下げるばかり。いよいよ大詰め、「ところで番頭どん、昨日、お久しぶりでございますと言っていたが、あれはどないなことや?」「顔を見られてしもた。これが百年目じゃと思いました」こういう落ちで終わります。

さて、前振りが大変長くなりました。その米朝、大舞台で一世一代のとりち、つまり大失敗をします。と言ってもあるミス（ほんの少し話を飛ばす）を米朝がそう捉えてるといっただけ、飛ばした場面を巧みに入れ替え本筋に戻り観客は全く気付かず、その芸に酔いしれています。しかし米朝は、「偉いしくじりをした 天下に恥かいた」と落ち込みます。その舞台とは、2002年4月29日、桂米朝最後の大劇場での独演会、東京・歌舞伎座で喜寿77歳の記念公演でした。わずかなミスも許さない自分に対する厳しさ、ここに桂米朝の芸の品格の根源が見てとれます。かくありたい、わたくしそう思います。

もしご興味を持って頂けましたら幸いです。YouTubeでもDVDでも一度ご覧下さい。尚、この話は、NHKスペシャル“桂米朝 最後の舞台”全編50分でご覧いただけます。本日は、明日の桂米朝命日に因み米朝の芸への姿勢の一端をお聞き頂きました。

本日はこれにて、おやかましゅうございました。

2021年3月18日

第二十三例会 会長の時間にて 東野裕暢